



実施主体	NPO法人 きょうと グリーンファンド
事業又は取組の 名称	市民共同の自然エネルギー（おひさま） 発電所づくり
事業又は取組の 実施場所	京都府内

事業又は取組の 概要	<p>きょうとグリーンファンドは、温暖化防止に有効な節電・省エネの推進と自然エネルギー利用を地域で普及させることを目的に、府内の幼稚園や保育園など地域の公共的な施設に自然エネルギー（太陽光など）の発電設備を市民共同で設置している。設置にあたっては、施設関係者や一般市民に対して節電・省エネを呼びかけて暮らしの見直しを促すとともに、「おひさま基金」に寄付してもらい、設置費用の一部に当てている。設備設置後は、施設とともに環境学習を継続して行い、地域の環境活動の拠点となることを目指している。</p>
事業又は取組の 経過	<p>2000年3月準備会を立上げ、2000年11月NPO法人の認証を取得した。以降、市民共同で「おひさま発電所」（太陽光発電設備）の設置と環境学習・エコ施設へのサポートを続けている。また、2003年度から2005年度まで京都府「府民参加型自然エネルギー普及促進事業」のアドバイザーも務める。</p> <p>2008年5月に国税庁より「認定NPO法人」と認定され、2010年5月二度目の認定を受けた。2015年、2020年4月に京都市より「認定NPO法人」と認定された。</p> <p>2015年11月、京都府より、再生可能エネルギー導入等支援団体として登録された。</p> <p>&lt;おひさま発電所の実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1号機：2001年3月京都市左京区の法然院・森のセンター</li> <li>・2号機：2002年2月京都市伏見区のあけぼの保育園（あけぼのこども園）</li> <li>・3号機：2003年2月城陽市の清仁保育園</li> <li>・4号機：2003年2月城陽市の清心保育園</li> <li>・5号機：2004年1月京都市右京区の夢窓幼稚園</li> <li>・6号機：2004年12月京都市山科区の陵ヶ岡保育園（陵ヶ岡こども園）</li> <li>・7号機：2005年1月京都市伏見区の春日野園（かすがのえんこども園）</li> <li>・8号機：2006年1月京都市北区の大宮保育園</li> <li>・9号機：2006年12月京都市伏見区のかがやき保育園</li> <li>・10号機：2007年5月京都市北区の妙林苑（認定こども園みょうりんえん）</li> <li>・11号機：2008年2月京都市伏見区につくし保育園</li> <li>・12号機：2009年1月京都市伏見区に向島保育園</li> <li>・13号機：2009年9月南丹市美山町のアースガーデン</li> <li>・14号機：2010年1月京都市山科区の大宅保育園（おおやけこども園）</li> <li>・15号機：2011年3月京都市右京区の自然幼稚園</li> <li>・16号機：2012年10月南丹市美山町の田歌舎</li> <li>・17号機：2013年8月城陽市の久世保育園</li> </ul>

- ・ 18号機：2015年2月宇治市のイサク事業所
- ・ 19号機：2016年4月京都市南区の上鳥羽北部いきいき市民活動センター
- ・ 20号機：2016年7月向日市のCherry's Hug 東向日園
- ・ 21号機：2016年12月京都市伏見区のイマジン
- ・ 22号機：2018年10月京都市伏見区の(株)吉川商店
- ・ 23号機：2019年1月京都市山科区の安朱保育園
- ・ 24号機：2020年11月京都市左京区の聖光幼稚園
- ・ 25号機：2023年4月宇治市のウトロ平和祈念館

<2023年度の実施>

(1) おひさま発電所の設置

他団体と連携した枠組み「市民再エネプロジェクト in 京都」として、京都市左京区の「下鴨幼稚園」、京都市南区の「吉祥院こども園」に太陽光発電設備を設置の取り組みを進めた。

(2) 環境に関する学習会の開催

既設のおひさま発電所のうち保育園・幼稚園の園児を対象に環境腹話術、自然観察会などの環境学習を行った。

<2024年度の実施予定>

(1) おひさま発電所の設置

他団体と連携した枠組み「市民再エネプロジェクト in 京都」として、京都市左京区の「下鴨幼稚園」、京都市南区の「吉祥院こども園」に太陽光発電設備を設置する“おひさまプロジェクト”を開始。

(2) 環境に関する学習会の開催

おひさま発電所での環境腹話術、自然観察会、職員研修などを開催予定。  
他に園の行事などのサポートを実施予定。

<p>事業又は取組の実施による効果</p>	<p>○公共施設での自然エネルギー普及  「おひさまプロジェクト」は、地域の公共的な施設や企業などを、おもな設置施設として選び、自然エネルギーの活用や節電によるCO<sub>2</sub>削減を実現させている。また、災害時の避難施設の自立電源確保のためにも太陽光発電、蓄電池の設置を進める。</p> <p>○意識を変えるきっかけ  環境問題の解決には個々の意識やライフスタイルを変えることが必要と叫ばれているが、実践は容易ではない。直接的な削減だけではなく、施設スタッフや関係者ときょうとグリーンファンドが、設置とともに学習会や啓発活動を進めることにより、参加者の意識や生活習慣を変えるきっかけとして効果をあげている。</p> <p>○環境学習の継続実施  設備設置後もきょうとグリーンファンドはサポートを継続しているが、その結果スタッフは自ら学びながら環境に配慮した活動を実践、その活動は施設運営や行事、教材開発にまで及び、他施設や地域へも発信するようになっていく。保護者とのつながりの強い保育園や幼稚園における環境学習は、日々の生活習慣として環境配慮を身につけるには大変効果的で、子どもたちは、環境に配慮する行動が日常的に身につく、家庭にも波及している。</p> <p>○市民共同発電所のモデルとして他府県にも拡大  同様の取組みが他府県にも広がっており、ひとつの「モデル」としても定着しつつある。</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>連絡先：事務局  TEL 075-352-9150  FAX 075-352-9150  E-mail info@kyoto-gf.org</p>